

【1】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

星のA鈍くまたたく夜、麦田の上を身を切るような風が渡る。
 B外套の襟を深く立てて東京へ行く一番列車に乗るべく急ぐ田舎道は、C霜柱が夜目にも白く、ざくりざくりと足の下に碎ける音を聞いていると、そぞろ山が思い出されてくる。こんな夜の山の寒さはまた格別であろう。それを思えば家にいて温かいこたつに当たっている方が数等楽な理であるが、行けないとなると山想う心は一人(ひと)とお、切ないものがある。何故こうも山が想われるかと、ふと己が心に問うて見る。

山へ登るには多少とも労苦を伴う。しかし、登ろうという心は労苦を愛する心では決してないであろう。やむを得ぬ場合を除いては労苦をつとめて避けるのが人情である。

「困難な登攀」をE標榜(ひょうぼう)する人たちでも、困難な登攀を少しでも楽に果たすことを考えているのであり、所詮は「楽な登攀」をしか思っていないのである。かと言って、それはもとより単純に安楽を求める心でもないであろう。シーイング、岩遊びの場合でもそうであるが、ことに登山の場合には一度目指されたD頂きはあくまでも追求されねばならず、いい加減でやめてしまうわけにはいかない。登山がスポーツとしての分野を持ちながら、なお全的にはスポーツといわれぬ理由もここにある。

古いノートをE繰(く)って見ると、その当時果たしたいと思ったスケジュールがずらりと書きつらねてある。年少ない頃は、世に困難とか不可能とか言われる登攀を、なんとかして自分の手で果たしてみたいと思う心が強かった。私はそれを恥ずべき心とは思っていない。否、むしろかような情熱が衰えていくことこそ警戒すべきものと思う。何事によらず、先人をF凌(りやう)ごうとするGこの種のヒロイズムこそ、人類をして今日あらしめたと感ずるからだ。古いスケジュールのかかりの数はすでに実行したし、残っているものも、中には今ではとても真面目に考える気のしないものもあるが、多くは依然魅力を保っている。④k、自ら実行する可能性のある限り、これらは私の胸中に止まって、私を山へ駆りたてるであろう。ここに働くものを、人間の文化創造の本能と呼んではいけないだろうか。

④i、やることにいくら意義があると思っても、行く山が好きでなくては、結局われわれは行かないのである。④m、山想う心が一次的には常に山そのものに対する愛着だということに興味する。この戦争で故人となったが、前穂北尾根又白側に輝かしい足跡をとどめたM高のY君が、かつていみじくも洩(も)らした言葉——山男はロマンチストだ——は、この辺の事情を物語る一つの感懐(かんわい)であろうが、私は⑥これを人間性の最もG素朴(すぼく)な要素である美(み)へのH好尚(こうじやう)に帰して考えたい。

山の持つ美への渴望——、山の美に憧れ、しかもその遠見に満足せず、もつと端的にその真つ只中へ飛び込んで一つに相解かれたいと願う心——、これこそ人間を駆って山へ向かわせる原動力だ。華麗、I陰惨、明快、幽邃(ゆうすい)、J重厚、深遠、平和、兇猛……、山の美は選ぶ人の心により各様である。或る人は富士を佳い山といい、或る人は穂高ほど素晴らしい山はないと言う。高尾山など頼まれても嫌だと言う人もあれば、そのふくよかな谷間をこよなく愛する人もある。しかし、それぞれ評価のすべてを貫いて流れるものは美への好尚であり、押しなべて山想う心である。

とまれ、私は古いスケジュールを果たしていこう。が、山に行くには元手がある。その最大のもは⑥である。⑥が衰えては思う山へも登れまい。私の古いノートに残る計画は、幸い大部分が年を取ってもやれるものであるが、中に若干のものは少々手強くて、私はこれをやれるのはせいぜい三十二、三歳ぐらいまでと思っている。なぜ三十二、三歳かと言っても返事に困るが、何となくそう思われてならないのである。それまでには後五年ある。が、以前の体力を取り戻して、さらにそれ以上を蓄積するためには、五年の歳月も短かすぎて愚図愚図していられない気持になる。
 日常の瑣煩(さぼん)事から解放された一とき、いつも思い出されるのはそのことであり、遠い山の姿である。

(松濤明『山想う心』)

問一. 傍線部A～Jの漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二. 傍線部②の「標榜」の意味として、適当と思われるものを

次の中から選び記号で答えなさい。

- ア. 主義・主張などをはっきりと掲げ示すこと
 イ. そうしたいと願うこと

問三. 傍線部③を次のように書き換えたとき、□に入ることばを8文字で表しなさい。

この種のヒロイズムによって、□と感ずる

問四. 本文中④k、④mに入る語句として適当と

思われるものを次の中から選びなさい。

しかし、□と言うことは、おそらく

問五. 傍線部⑤の「これ」となにか、本文中から十一文字の

ことばを抜き出さなさい。

問六. 本文中⑥に入る語句として適当と思われるものを次の

中から選び記号で答えなさい。

ア. 知力 イ. 体力 ウ. 財力 エ. 資金力

【2】 次のカタカナの部分の漢字で答えなさい。

- ① カンキ扇 ② 注意をカンキする ③ カンキの声をあげる
 ④ 顧客名簿をショウカイする ⑤ 友達をショウカイする

【3】 次の語の反対語を書きなさい

- ① 委細 ② 謙虚 ③ 総論 ④ 過激 ⑤ 尊敬

【4】 次の()内にことばを入れてことわざを完成させなさい。

- ① ()の白袴 ② 出る()は打たれる
 ③ 糠に() ()も山のにぎわい

【5】 次の作品の著者を解答群から選び記号で答えなさい。

- ① 伊豆の踊子 ② 城の崎にて ③ 斜陽
 ④ 金閣寺 ⑤ 万延元年のフットボール

《解答群》

- ア. 三島由紀夫 イ. 志賀直哉 ウ. 大江健三郎
 エ. 川端康成 オ. 太宰治 カ. 夏目漱石

【6】 次の動詞の尊敬語と謙讓語をそれぞれ書きなさい。

- ① 居る ② 見る ③ 食べる